

石清水八幡宮駅周辺まちづくりシンポジウム

登壇者

京阪電気鉄道株式会社
代表取締役社長

元株式会社伊勢福(おかげ横丁)
代表取締役

大阪工業大学
工学部建築学科特任教授

川田 翔子 市長

平川 良浩 氏

橋川 史宏 氏

岡山 敏哉 氏



まちの 話題

このページでは、市民の皆さんの活躍
やまちの話題などを紹介しています。
身近な話題や、広報紙についての意見
を、秘書広報課までお寄せください。



おもてなしの心を／持続可能な形で

市民と駅周辺のまちづくりを考える「石清水八幡宮駅周辺まちづくりシンポジウム」を2月16日、文化センターで開催しました。

基調講演では、元株式会社伊勢福(おかげ横丁)代表取締役の橋川史宏氏が、「地域の魅力を引き出す町づくりを考える～伊勢の事例から～」

をテーマに、観光を活かしたまちづくりの要素を紹介。「お客様をどうおもてなしするのか、『歓迎』の気持ちがとても大事」と話しました。

後半は、川田市長が駅周辺のランドデザイン案を示し「市民の皆さんとともに作り上げたい」と説明。パネルディスカッションには、大阪

工業大学工学部建築学科の岡山敏哉特任教授を進行役に、京阪電気鉄道株式会社の平川良浩代表取締役社長、橋川氏、川田市長が登壇。「駅前のポテンシャルや可能性」と「ランドデザインの実現に必要なこと」をテーマに議論を交わし、平川氏は「地元の機運を高めて」、橋川

氏は「事業者が持続可能な形でまちづくりに参画できるかが重要」と話していました。

興味深く聞き入った来場者210人は、終了後に駅周辺の将来イメージのパネル＝写真＝が並ぶコーナーに寄り、思いやアイデア等を綴った付せんを貼り付けていました。



本殿前で神職・巫女らに豆をまかれ、スロープを転げる赤鬼と緑鬼

「鬼やらい神事」無病息災願う

石清水八幡宮で2月2日、節分行事「鬼やらい神事」が行われました。本殿前に詰めかけた参拝者は、一斉にまかれた「福豆」をつかもうと懸命に手を伸ばし、無病息災を願いました。

同神事は、節分の直前の日曜日(節分が日曜日の場合は当日)、宮中に伝わる古式にのっとり斎行。参拝客が見守るなか、鬼を追い払う「鬼やらい人」が、四方と今年の恵方である西南西を、邪気をはらうとされる桃の枝が飾られた弓で射る動作をしたり、桃の枝の剣で打ち下ろし

たりしました。

そして、太鼓の音とともに「こん棒」を手にした赤色と緑色の4体の鬼が登場すると、参拝者の中に子どもを見つけては大声で脅かしながら歩き回りました。

歓声や泣き声が響くなか、鬼は本殿に向かって突進。しかし、鬼やらい人や神職・巫女らが「鬼やろう」のかけ声で豆を投げつけると、すぐ退散。何度もスロープを転げ落ちる様子に、参拝者からは歓声や拍手が起こっていました。

石清水八幡宮で節分行事

京阪電車やドクターイエローも

Nゲージ鉄道模型公開運転会

2月1、2日、さくらであい館で「Nゲージ鉄道模型公開運転会」が開催。実物の150分の1サイズの鉄道模型を使った運転体験など、会場は多くの親子連れで賑わいました。

同イベントは、淀川河川公園管理センターが主催し、鉄道模型イーナクラブと京阪ホールディングス株式会社の協力で開催。

会場には、京阪電車をはじめ、人気車両「ドクターイエロー」な

どが走り回る鉄道模型の巨大レイアウトを設置。さらに、先頭車両にカメラがついている車両を使った運転体験に子どもたちは大興奮。モニターに映し出された映像を見ながらハンドルレバーを握り、出発進行。憧れの運転士の気分を満喫していました。

ほかにも、子どもが車掌の制服を着られる記念撮影コーナーや、トイトレインで遊べる部屋など、どのイベントも大賑わいでした。



Nゲージ鉄道模型が走行する様子をカメラで撮影したり、見学したりする来場者

今月のこの人

ダブルダッチ 世界を舞台に活躍

「生まれ育った地元 盛り上げたい」

R I K Uさん

(大野 陸)

京都を拠点に活動するプロのダブルダッチチーム「NEWTRAD」に所属。令和6年7月に世界大会の「DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD 2024」に出場し、チームの総合3位入賞に貢献。同年11月、八幡市スポーツ賞を受賞。市内在住。

「ダブルダッチを通じて多くの人に夢や力を与え、八幡で生まれ育った1人として地元を盛り上げたい」と話すのは、市内在住のパフォーマー、R I K Uさん。

小学5年生の時に授業で、2本のロープを使った縄跳び「ダブルダッチ」に出会ったR I K Uさんは、パフォーマーが繰り出す技の数々に心奪わ

れ、すぐさまレッスンに参加。新技への挑戦などにのめり込みました。

ロープの回し手と息を合わせることが不可欠なダブルダッチは「1人ではできないことが魅力」と語るR I K Uさん。苦手だった人との対話や人前での表現も「ダブルダッチを通じて成長できた」といいます。

大一番で披露する2倍速で回る縄を跳ぶ技「ハリーステップ」が得意で、チームで国内外のイベントやメディアに出演するほか、個人でも後輩への指導や母校での講演会を行うなど、多忙な日々を過ごしています。

今後は「1対1でジャンプの表現力を競う最高峰の大会で優勝することが目標。個人としても活躍できるプレーヤーを目指したい」と意気込みを語りました。

